

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4772300044		
法人名	社会福祉法人 幸仁会		
事業所名	さわやかホーム 比謝川の里		
所在地	沖縄県中頭郡嘉手納町字水釜336-2		
自己評価作成日	平成21年9月15日	評価結果市町村受理日	平成20年11月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigojoho-okinawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4772300044&amp;SCD=320">http://www.kaigojoho-okinawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4772300044&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	沖縄県社会福祉協議会		
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1		
訪問調査日	平成21年10月31日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

住宅を改装した建物で、内部も普通の家で家庭的な雰囲気が特徴。
--------------------------------

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

住宅街の一角にあるホームは、一般住宅を一部改修した建物で、利用者が安心して置や木のぬくもりが感じられる。地域の中でその人らしく暮らせる恵まれた環境にあり、周辺には個人住宅やスーパー、商店、ファーストフード店等があり、交通の利便性もよく家族などの来訪も容易である。踊りや三味線の地域ボランティアの来訪、隣家から垣根越しに季節野菜をいただいたり、隣人の日常の営みにふれながら過ごされている。職員は利用者の生活パターンにあわせ、ゆったり寄りそうケアを行ない、買い物、美容室の利用、ミニドライブなど日常的に外出の機会をつくり、馴染みの関係が途切れることがないよう支援を行っている。
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者と職員ともに話し合い、わかりやすい言葉で独自の理念を作りあげた。年度始めに理念の見直しはないか確認の話し合いを利用者共に持っている。	年度始めに理念の見直しについて利用者と共に話し合いを持っている。利用者に書いていただいた理念は大きな字で見やすいように玄関の壁に掲示してある。また、居間や台所にも掲示し管理者と職員は理念を共有しケアにあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の祭りや行事に参加、特養ホームの祭りや行事にも参加している。	自治会の敬老会や地元の行事に呼ばれて参加をしている。また地域ボランティアの来訪で踊りや三味線の練習日は、入居者も楽しみにされ全員参加されている。近所の方から垣根ごしに野菜をいただく等、日常的な交流はあるが、自治会への加入は検討中である。	自治会に加入する等、事業所自らが地域行事やボランティア活動等に積極的に参加され、広く地域の方々と交流を深めていかれる事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	体験学習で地元の学生を受け入れ、実践している。その後もボランティアで協力してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者や施設の状況を深く知ってもらうようになった。また地域からの意見・要望によりサービスの向上に役立っている。	運営推進会議は、職員、家族代表、自治会2団体の代表、町役場の職員、地域包括支援センター職員、地域住民代表等のメンバーで構成され、2ヶ月に1回開催できるように取組んでいる。管理者と職員はメンバーからの意見・要望を共有しサービスの質の向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会のメンバーでもあり、入居者の受け入れ状況や相談を高齢福祉課や地域包括支援センターと行っている。	町役場からの空き状況等問合せに情報を提供したり、また窓口で質問や相談に行き助言を得るなど連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はせず家族や訪問者がいつでも出入りできるようにしている。また身体拘束をしないケアを時には家族の理解を得る場合は話し合いを持っている。	玄関に施錠はせず見守りを徹底している。外出をされる気配を察知したら、さりげなく声をかけ一緒に出かける等、支援を行なっている。自由に活動できるように手すりを設置して、職員が見守る中でエレベーターや階段も利用され自由に過ごされている。昼夜逆転の方も薬等で抑制をしない方針でケアを行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間においても虐待のないようお互いが意識し、見過ごされないように注意し、報告し防止する。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、まだ話し合い、勉強会もできていない状態ですが、資料をいつでも閲覧できるよう準備してある。相談の窓口にしっかり答えられるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をするときに契約文を十分に理解できるように、説明し理解を得ている。質問にも適切に答えるように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の声をどんな些細なことでも聞く姿勢を持ち、家族の意見も反映させる。言葉にできない場合は、投書箱を利用してもらう。外部より相談員をうけいれ意見を聞いている。	玄関に投書箱を設置しているが、利用は少ない。面会や運営推進会議などでご家族、地域の方々の意見を引き出すように工夫している。言いにくいことは、積極的に投書箱の利用を勧めている。また、外部から相談員を受け入れ意見を聞き運営に活かすように取組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回定期的に運営委員会を開き、現状や問題点など報告し又職員の提案等も聞いている。	月1回運営委員会を定期的開催している。管理者と職員はそれぞれの意見や要望を率直に言える雰囲気が保たれている。職員の意見や要望は、伺い書で検討され、積極的に取り入れ・改善に向け取り組みが行なわれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況や力量等を評価し、時には意見を聞き励ましたり、アドバイスがなされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本体施設の計画する研修、勉強会に積極的に参加している。又グループホーム連絡会に加入しており研修の機会を確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム連絡会にて同業者との交流の機会や、他の施設の取り組み等を情報交換又施設見学をし質の向上に役立っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者のアセスメントをしっかりと取り、本人の生活状況を把握し、主のペースに合わせた生活ケアで接している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人家族が不安に思っていることを職員全員で受け止め、共有するケアを行っている。状態の変化をその都度報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容と本人の意向、身体状況を把握し、現在どんな支援が必要か見極め、他のサービス情報も提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの人格を尊重しホーム生活を通して、お互いの得意分野を生かした、役割分担を行い共に協力して支えあう関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者本人が抱えている問題や不安を職員だけではなく、家族と共に協力して考えるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者がこれまで慣れ親しんだ人の話や場所の話題が途切れることがないようにコミュニケーションを図り、古里訪問もときには行っている。	利用者がこれまで慣れ親しんだ人との関係が途切れることがないように、馴染みの美容室やふるさと訪問の際に隣近所へ立ち寄り、親戚の方との交流も図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士うまく馴染めない方には職員が補助役になって、いい関係作りを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されるときはいつでも相談や、協力体制もお受けすることを伝えている。現在在宅に戻った方の協力員としてフォローアップしている。退所後も家族と遊びに来所し情報も交換している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での本人の意向希望を聞き、家族も含めたその人らしい生活を前提とし、検討している。	利用者の生活歴などの調査を行い、日々のケアの中でも声かけをして本人の思いの把握に努めている。意思疎通の困難な利用者は家族から話を聞いたり、行動や表情から汲み取るようにし、思いを表出されない方にはいくつかの選択肢の中から選んでいただくように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時に本人・家族から生活歴や趣味・嗜好・性格の情報を聞き取り、担当したケアマネやかかりつけ医からの診療情報も提供してもうようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の性格や好みにできるだけ添うように、ホーム活動を支援している。塗り絵・パズル・音楽鑑賞		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の思いを原案に、本人ののぞむ生活が支援できるよう、定期的に個々の状態を話し合い、レベルにあったケアで介護計画を作成している。	本人、家族、職員等の情報と医師からの診療情報を参考にチームで話し合い、利用者の現状に即した介護計画を作成している。月1回のモニタリング、3ヶ月ごとのケアカンファレンス(専門職による会議)を行い見直しを行なっている。緊急の対応事例はないが、変化があれば見直しを行なうよう取組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りの中でも利用者、個々に変化があればその都度、職員間でも情報を共有し見直している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族が外出や外泊の希望があれば、柔軟に対応している。知人等に会いたいとの希望や面会時間も柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方に顔見知りになっていることから、利用者を見かけると「元気だった」と声をかけられるようになった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医を家族・本人の希望のもと継続し事業所とも連携し、適切な指示を受け病状管理の支援をおこなっている。	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診支援を行なっている。医師からの問合せに情報を提供したり、また適切な指示を受け病状管理の支援を行なっている。月1回の定期受診は家族が対応されているが、家族が同行受診できない場合は管理者が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の発熱・湿疹・体調変化の場合、看護師に連絡24時間オンコール対応し確認や指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療できるように、見舞いや、病院関係者との情報交換をおこなっている。特にケースワーカーと家族も含め連携するようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について、家族も不安なことから要望等は話あっている。事業所のできる程度の限度も話すようにしている。まだ不十分などところもある。	家族と医師、事業所に対応し得るケアについて話し合いを持ち、意思確認書を作成している。また全職員を対象に医師による研修を行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常に資料等は目につくところに設置して、日々急変時にそなえる姿勢でいるが実施訓練の実践は特に行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は定期的に行うようになっている。その時近隣に避難の際の協力支援をお願いしている。チラシ配布	年2回、利用者、職員、近隣の方が参加して消防署の指導のもと避難、消防訓練を実施している。利用者の避難には近隣住民の協力をお願いし避難経路や避難場所の確保もされている。	居室の多くは、2階に配置されていることから災害時の避難には、近くのコンビニエンスストアや隣人、母体法人等、大勢の人の協力を得られる体制作りを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の性格や病状を把握し、プライドを傷つけない対応を心掛けている。	利用者の性格や病状を把握、これまで培ってきた生活歴や誇りを尊重し、プライドを傷つけない言葉づかいや接し方に心がけている。ミーティングの際、プライドを傷つけていないか確認しあい、特に利用者の容姿について話題にしないよう職員に指導を行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホーム生活の中で入居者個々の能力を把握し、押し付けのないよう、質問内容や選択の仕方を工夫し自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の居心地のいい場所を尊重し自由にあたりまえの生活が出来るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望にあわせて服装や、習慣にしている髪の毛のセットを行っている。また行きつけの美容室に出かけて髪をきっている。通販での買い物も支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の事前準備の野菜下ごしらえ等、利用者の能力にあわせて、職員の見守りの中、包丁で刻んだり、一緒に作ったと言う意識をしていただいている。	職員と共に庭の季節野菜を収穫し食材に使ったり、残存機能を活かし野菜を刻んだり、調理の下ごしらえや後片付け等手伝ってもらい、一緒に作る喜びを感じてもらいながら職員とともに食事を楽しんでいる。職員はさりげない介助と話題で雰囲気作りを努めている。茶碗や食器も利用者の好みを尊重し支援している。	一人ひとりの利用者の希望や好みを聞き、調理法や献立も選べるような取り組みを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に水分、食事量のチェックを記録している。食事は盛り付け、おにぎり、おかゆ、キザミ食なども配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを必ずおこなっている。個々の能力にあったやり方で充分に出来ない方は職員が確認支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自己排泄の訴えない方は、排泄パターンを把握し誘導、又自己排泄できる方は自立支援を促し見守り介助している。	個々の排泄パターンを把握し、声かけをしてトイレ誘導を行なっている。失禁がある場合でも自尊心を傷つけないよう配慮し快適に過ごせるように支援を行ない、現在のところオムツの使用はない。プライバシーには十分配慮し、トイレ使用时にはドアの開け放しがないよう気を配っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として水分をこまめに促し、入居者の便通を促す牛乳等も対応。軽運動もその対策としている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者に入浴のお誘いし拒否の場合は、無理強いせず時間をずらしてのタイミングを待って対応する。	入浴は基本的に毎日行ない個別対応としている。長い習慣から朝の入浴を希望される方にも体調を確認しながら希望にそった支援を行なっている。入浴拒否の方へは無理強いせず、言葉かけや大好きな娘の話をすることで入浴を行う等努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活パターンを把握し、日中の活動や精神的に不安を与えないケアを心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個々の薬セット箱に常に薬の説明書を貼って副作用等の確認ができる。又薬の変更があった場合も観察をしっかり行い、看護師との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意なことを把握し、計算ドリルや塗り絵・かるた・民謡(故郷の歌)を聞くなどで気分転換を図る。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居前から出かけていた自治会ミニデイサービス(月2回)には継続して参加し、民生委員や地域の自治会の協力も得ることができた。	週1回木曜日は外出の日と決め、ドライブ、買い物等、日常的に外出の機会をつくり、チラシをみて買い物を希望される方や馴染みの美容室に出かける等の支援を行なっている。また自治会のミニデイサービスへの継続参加の取り組みも行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方は自分でおこずかいを管理してもらっている。その他の利用者は預かっているこずかいの中から、買い物したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で子機を使用し親戚等や家族に電話している。ほしい物の注文等もおこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な空間の照明で、テレビ・ラジオの音量も要望を聞いてあわせている。食卓、ソファ、居間も共有の場も確保され庭も眺めることができる。天気の確認もできる。	置敷きの居間にはソファも置かれ、家庭的でやさしい照明のもとで、利用者は敬老会やクリスマス会等の自分の映っているビデオを觀賞されたり、また利用者職員が会話を楽しんだりコミュニケーションの場として家庭的な雰囲気づくりをされている。	利用者が慣れ親しんだ沖縄の文化にふれる工夫や、日常生活の中で季節感を感じられるような生活空間づくりを期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のイス、ソファ、ホールの一人座り、2~3人掛けのソファと多種のイスが設置。一人穏やかに過ごしたり、2~3人で座り雑談、テレビ鑑賞自由に行動できる配置がされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、洋タンスは施設提供であるが、それぞれ使い慣れた物を持ち込んでいる。本人の宗教も制限しないで自由に対応している。	居室には馴染みのタンス・ベット・小物(家族との写真や縫いぐるみ)等が配置され、宗教等も自由でその人らしさが感じられる。遠方に住む家族が面会の際、利用者と共に宿泊できるようベットが置かれ、利用者が安心して過ごせるよう配慮されていることがうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーター使用できる方は、指導し活用させている。階段はすべり止めを工夫し、制限するのではなく安全に自立した生活を支援している。		